

**令和6年度 大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業  
審査結果表**

大 学 名	立命館アジア太平洋大学	タイプ	I：地域等連携型
プログラム名	Leap Beyond Global：組織・地域・分野を超えたグローバルな価値創出		
連携大学等	九州工業大学		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、国際化した大学機関としてフロンティア的な位置づけである立命館アジア太平洋大学と、九州工業大学が連携し、それぞれのキャンパス内や既存の枠組みの中にとどまらない規模で大学改革を実現するために、双方の強みを活かした体制で実施するものとなっており、高く評価できる。具体的には、国立・私立、文系・理系の枠を超えた2大学連携体制を構築し、組織・地域・分野を超えたグローバルな価値創出を目指そうとする大変意欲的な計画となっている。理工学専攻の学生層が今後必要とする資質を育成する上で、両大学間で連携し、地域が抱えるテーマを取り込む文理融合教育カリキュラムが構築されることは、他大学にとっても参考となるモデルケースになるであろう。

その他、連携相手の九州工業大学と教職員のクロスアポイントメントを進めることや、アウトプットを学部教育にとどめることなく、専門教育や研究にも発展させる計画等、多岐にわたる協働の展望が示されており、これらを着実に実現していくことを期待するとともに、本プログラムの成果を2大学にとどめることなく、今後の日本の高等教育における多文化共修に関する取組みとしてどのように横展開していくかを検討し、補助期間内に遂行していただきたい。

一方で、活動計画の内容については今後改善が必要な点も存在する。例えば、両大学間の物理的な距離をデジタル技術で埋めるという取組みは有効ではあるが、学生同士が対面で共修する仕組みもより具体化することが必要であり、もう一段上の工夫が望まれる。また、それぞれの特徴や設置形態が異なる大学間連携における本プログラムの成功のためには、教学マネジメント、教職員のメンタリティ、学生の入学時の国際経験、海外志向、異文化間コンピテンシーなどの差を乗り越える策が必須となるが、現時点においてこれらの具体的な計画が不十分である。

最後に、今回選定された両大学においては、世界や地域の課題解決に資する人材を育成するため、多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動を、国内外の課題解決策の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出につなげていくことを強く要請する。